

認知症高齢者の 人権問題について

認知症とは？

「認知症」とは老いにもなう病気の一つです。

様々な原因で脳の細胞が壊れたり、働きが悪くなることで、記憶力や判断力に障がいが起こり、社会生活や対人関係に支障が出る状態のことをいいます。認知症は、高齢者に多い病気ですが、働き盛りの年代でも発症するケースがあり、65歳未満で発症した場合は「若年性認知症」といいます。



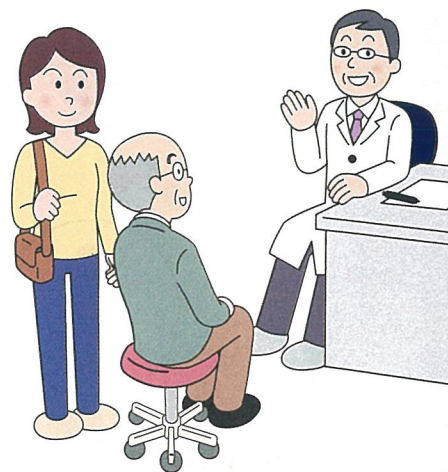
	加齢によるもの忘れ	認知症によるもの忘れ
体験したこと	一部を忘れる 例)朝ごはんのメニュー	すべてを忘れている 例)朝ごはんを食べたこと自体
もの忘れの自覚	ある	ない
探し物に対して	(自分で)努力して見つけようとする	誰かが盗ったなど他人のせいにすることがある
日常生活への支障	ない	ある
症状の進行	極めて徐々にしか進行しない	進行する

対応は？

自分自身や家族・同僚・友人など周りの人についておかしいと気づいたら、認知症の早期診断・早期治療につなげるために、1人で悩まず、かかりつけ医(主治医)や市の相談窓口などに相談しましょう。

認知症サポーターとは？

「認知症サポーター養成講座」を受講し、正しく認知症を理解して認知症の人とその家族の「応援者」となります。

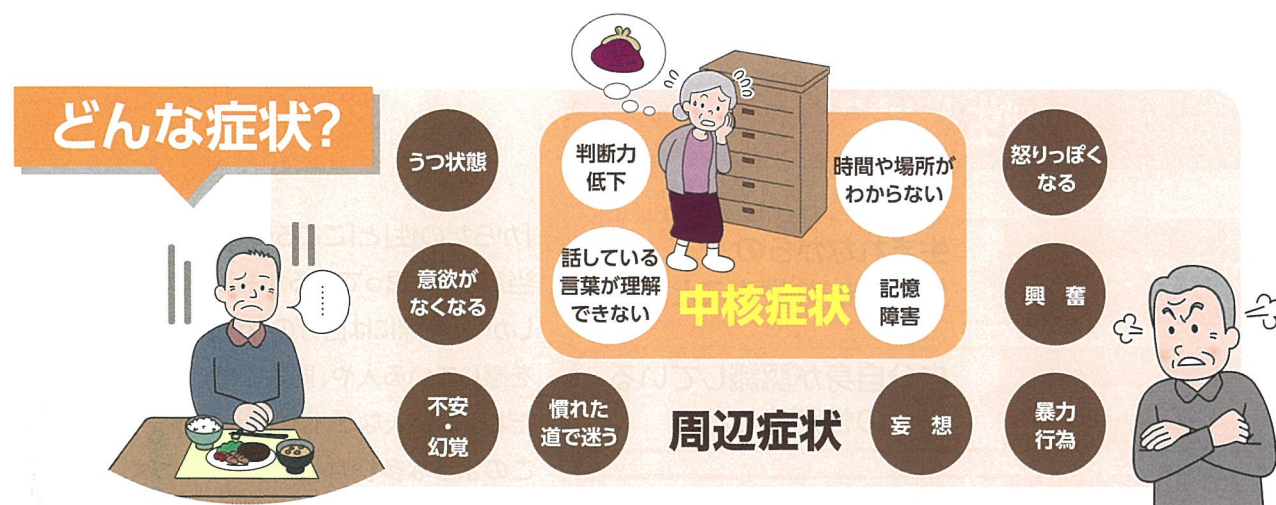


日本における平均寿命は80歳を超え、まさに超高齢社会を迎えています。

様々な人権課題の中で、高齢者、特に認知症高齢者の人権は、身近な問題となっています。

家庭や地域での関わり方、認知症の人自身の意欲や能力の活かし方について、

考えていく必要があります。



中核症状と具体例

症 状	具 体 例
記 憶	物事を記憶できなくなる。 特に、直近の出来事が覚えられない。
認 識	日時がわからなかったり、迷子になる。
実行機能	計画を立てたり、 手順を考えたりできなくなる。
理解・判断	物事を順序立てて考えられなくなる。
計 算	簡単な計算ができなかったり、 買い物ができない。

周辺症状と具体例

症 状	具 体 例
感 情	周囲の空気が読めなかったり、 その場に合わせた対応ができない。
う つ	認知症への不安や戸惑いから、 ふさぎ込むようになる。
暴力・暴言	不安や戸惑い、記憶力の低下によって、 イライラして暴言を発したり、 暴力を振るってしまったりする。
幻視・幻聴	現実にはない人や物が見えたり、 会話が聞こえたりする。

家族や周囲は どうすればいいの？

認知症の人は理解力が低下しているものの、感情面はとても繊細です。あたたかく見守り適切な援助を受ければ、自分でやれることもたくさんあります。

認知症という病気を理解して、さりげなく自然で優しいサポートを心がけましょう。

